

平成 20 年度 決算 の 概要

1 一般会計

(決算額)

歳入総額	76 億 5,508 万 9,531 円
歳出総額	74 億 7,299 万 7,340 円
歳入歳出差引額	1 億 8,209 万 2,191 円

(歳入・歳出の主なもの)

(歳入)		(歳出)	
地方交付税	30 億 7,731 万円	総務費	16 億 8,827 万円
町税	14 億 4,535 万円	民生費	15 億 5,503 万円
地方債	8 億 5,986 万円	公債費	11 億 6,457 万円
県支出金	6 億 2,603 万円	教育費	8 億 9,837 万円
国庫支出金	4 億 5,112 万円	土木費	6 億 8,899 万円
諸収入	4 億 3,282 万円	衛生費	6 億 4,169 万円

(健全化判断比率)

実質赤字比率	— %	(普通会計による比率。2.43%の黒字)
連結実質赤字比率	— %	(全部の会計による比率。5.38%の黒字)
実質公債費比率	21.2 %	(H18~H20の3年平均)
将来負担比率	205.3 %	

(企業会計の資金不足比率)

北栄町水道事業特別会計	— %
北栄町下水道事業特別会計	— %
北栄町農業集落排水事業特別会計	— %
北栄町合併処理浄化槽事業特別会計	— %
北栄町風力発電事業特別会計	— %
北栄町大栄歴史文化学習館特別会計	— %

2 国民健康保険事業特別会計

歳入総額	17 億 4,629 万 5,770 円
歳出総額	17 億 4,724 万 51 円
歳入歳出差引額	△ 94 万 4,281 円

3 介護保険事業特別会計

歳入総額	13 億 9,839 万 9,117 円
歳出総額	13 億 8,425 万 5,981 円
歳入歳出差引額	1,414 万 3,136 円

4 老人保健事業特別会計

歳入総額	1 億 9,184 万 9,609 円
歳出総額	1 億 9,255 万 6,575 円
歳入歳出差引額	△ 70 万 6,966 円

5	住宅新築資金等貸付事業特別会計			
	歳入総額	2,723万	5,408円	
	歳出総額	5,189万	8,093円	
	歳入歳出差引額	△ 2,466万	2,685円	
6	高齢者・障害者住宅整備資金貸付事業特別会計			
	歳入総額	56万	6,568円	
	歳出総額	56万	6,568円	
	歳入歳出差引額		0円	
7	下水道事業特別会計			
	歳入総額	18億 3,548万	5,305円	
	歳出総額	18億 4,789万	1,958円	
	歳入歳出差引額	△ 1,240万	6,653円	
8	農業集落排水事業特別会計			
	歳入総額	1,939万	4,953円	
	歳出総額	1,939万	4,953円	
	歳入歳出差引額		0円	
9	風力発電事業特別会計			
	歳入総額	2億 5,522万	6,065円	
	歳出総額	2億 4,593万	63円	
	歳入歳出差引額	929万	6,002円	
10	栄財産区特別会計			
	歳入総額	126万	843円	
	歳出総額	80万	5,627円	
	歳入歳出差引額	45万	5,216円	
11	合併処理浄化槽事業特別会計			
	歳入総額	437万	8,030円	
	歳出総額	441万	3,030円	
	歳入歳出差引額	△ 3万	5,000円	
12	大栄歴史文化学習館特別会計			
	歳入総額	3,642万	9,334円	
	歳出総額	3,642万	9,334円	
	歳入歳出差引額		0円	
13	後期高齢者医療事業特別会計			
	歳入総額	1億 3,117万	917円	
	歳出総額	1億 3,117万	917円	
	歳入歳出差引額		0円	
14	水道事業会計			
	(収益的収支)			
	収入合計	2億 7,137万	1,971円	
	支出合計	2億 3,538万	3,784円	
	差引	3,598万	8,187円	
	(資本的収支)			
	収入合計	3億 8,184万	1,200円	
	支出合計	5億 9,450万	9,992円	
	差引	△ 2億 1,266万	8,792円	

実質公債費比率

公債費や公債費に準じた経費を標準財政規模と比較することにより財政の硬直化を示す。これらの経費は削減したり、先送りすることの出来ない最も義務的な経費であり、この比率が高まると財政の弾力化が低下し、他の経費を削減しないと収支が悪化し赤字団体になる可能性が高まるもの。

早期健全化基準・・・25% 財政再生基準・・・35%

- 北栄町の状況 21.2% (前年度19.7%)
- 増加の要因
 - ・下水道事業債の償還に充てた一般会計繰出金の増加
 - なお、公債費は西高尾ダム周辺整備事業、有線テレビ放送施設設置事業などの償還終了により減少傾向
- 今後の見通し 今後、まちづくり振興基金、情報化整備事業、北条小改築事業の元金償還が始まるため、平成22年度には22%まで上昇となる見込み。

将来負担比率

地方債の現在高、将来負担すべき債務を標準財政規模と比較することにより、将来負担の程度を示す。この比率が高い場合は、一般財源規模に比べ、将来負担額が大きいうことであり、今後実質公債費比率が増大することにより、財政運営上問題が生じる可能性が高くなる。

早期健全化基準・・・350%

- 北栄町の状況 205.3% (前年度185.2%)
- 増加の要因
 - ・下水道事業債残高の増加
 - ・下水道事業債の償還に充てた一般会計繰出金の増加
- 今後の見通し 一般会計の起債残高は平成22年度がピーク、下水道会計についても21年度がピークの予定であり、将来負担比率も同様の結果となる見込み。